

板垣由美子議員



「防災対策について
避難訓練のあり方について」

現在、町では年1回まなづる小学校を会場に総合防災訓練を実施している。それ以外にも地域別にその地域にあった避難訓練を実施する必要があると思われるが。

震災時にあってトイレの問題は感染症の蔓延、健康への影響など深刻な問題を引き起こす。水洗トイレが使用できない状況を想定しマンホールトイレ、又、炊き出しに転用できるかまどベンチの設置は。

「広域避難所へのマンホールトイレ、かまどベンチの設置について」

日頃から家族、隣近所の状況を把握して、自助、相互の努力が必要と考えます。隣近所の状況を隣組長が連携して、自治会と町が安否の確認を含めた連携体制がとればさらに良いと考えます。今年度は岩の海水浴場での避難訓練を予定しています。

導入する予定です。県・市町村地震災害対策検討会議で情報交換等を行いながら進めていきます。

トイレの設置につきましては、広域避難場所、自宅、マンション等で避難される方々のことを考慮し整備して行きたい。かまどはブロック等を利用する事で対応できると考えます。

被災した場合の生活再建にむけ必要な罹災証明書の円滑発行と行政事務の迅速な対応が提供できる被災者支援システムの導入は。



地区での自主安否確認訓練

「児童、生徒への防災教育について」
釜石市では、独自の防災教育によって学校管理下にあった子どもの犠牲者数がゼロだった。学校現場における防災教育については。

真鶴町教育委員会では町内の幼、小・中での地震の際の行動を調査し、今後の改善点をまとめました。幼児、児童、生徒の安全な下校の仕方、海での校外学習の避難路を改善しました。さらに今後防災計画・防災教育の見直しをします。知識だけでなく日常生活の中で実際に役立つ判断力、行動力を育てるなど改善策をマニュアル化し防災教育の日常化を図ります。

一般質問

高田 昇議員



「腐葉土の持ち出しは可能？」

「薬剤にたよらない松の保全について」
松の生育にとつて、広葉樹の落ち葉の堆積による腐葉土、松の木にと

つては、栄養過多となり、菌根菌という松の根にとって必要な微生物を減少させてしまうので、落ち葉を取り除いた方がいいという要望を受けた。落ち葉の片付けくらは、行政にでなく町民有志でやった方がいいと思う。

松の生育環境については、肥沃な土壌が、松にとつていけないものとは一概に言えないという、見解も出ています。土石の採取は自然公園条例では、原則禁止ですが森林の保全目的であれば、制限の適用除外になります。

黒岩宏次議員



「すみやかな救済を！
放射能物質による足柄茶への被害対応について」

放射能発生源の東京電力と国が誠実に対応するように真鶴町からも次の3点を強力に働きかけるよう求める。
第一は原発事故の早期

御林は、松、楠、スダジイの巨木が生い茂ることから、平成21年2月に照葉樹林帯として、県の天然記念物に指定されました。

収束に向けて全力で対応し、被害をこれ以上拡大しないこと。
第二は茶園農家の損害・風評被害への全面賠償・仮払いも含めて速やかかつ誠実に行うこと。
第三に事故の収束まで相当の時間が懸念されることに對し、農作物をはじめ水産資源への被害・観光業への風評被害を含めて町の積極的な取り組みについて伺う。

「放射能発生源の東京電力と国が誠実に対応するように真鶴町からも次の3点を強力に働きかけるよう求める。
第一は原発事故の早期

その後、6月2日に当町を含めた2市3町1村に対して出荷制限が出されたことを受け8日に当町を含む関係18団体の連名で厚生労働大臣・文部科学大臣あてに「茶の各形態に応じた個別の暫定規制値の設定」等について求めた緊急要望書を出しました。また補償については現在、7月の仮払いに向け、関係機関と連携し、対応しているところです。